

## 令和3年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」自己点検・評価結果一覧

点検・評価項目	点検結果	評価結果	改善・向上に向けた計画
教育プログラムの履修・修得状況、履修率向上に向けた計画の達成・進捗を確認する。	プログラム開設年度である令和3年度は、全学共通科目「データ分析入門」の履修・単位修得者が4名にとどまり、履修率は極めて低値となった。「データ分析入門」と同一の曜限に共通科目が7科目開講され、学生の希望に基づく選択を認めた結果である。	初年度の履修状況・履修率は良好と言えず改善が必要である。	プログラム構成科目の全学共通科目を必修化し、プログラム履修率を改善する。 令和4年度には、生活学科、ビジネスコミュニケーション学科、デジタルライフビジネス学科で必修化、令和5年度には幼児教育保育学科で必修化し、プログラム履修率100%を目指す。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度、学修成果を確認する。	プログラム構成科目のうち、令和3年度に開講した「情報処理基礎Ⅱ（生活）」及び「コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ」の授業評価アンケートでは、学生の理解度を問う質問に対し、4段階評価で前者は平均3.38、後者は平均3.43で、学生から高い評価を得た。（「データ分析入門」は受講者数が10名に満たなかったため、授業評価アンケートの対象外となった。）	授業評価アンケート結果から、一定の学修成果が確認できた。	今後、プログラム全体に関するアンケートを実施し、プログラム全体の理解度、学修成果の評価に基づき、授業改善、プログラムの改善を図る。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、産業界等外部からの評価を確認する。	令和3年度開設のプログラムであるため、令和3年度にプログラム修了者はいない。		キャリア支援課において、プログラム修了者の就職先に対し、就職後の活躍状況や能力評価等についてヒアリング調査を行う。また、プログラムを修了し就職した者に対し、プログラムの評価のためのアンケートを行う。